



### 「アイデンティティとは」

和氣敬二



令和5年4月からハンガリー・ブダペスト日本人学校に勤めています。自分が日本人学校の職員として意識して仕事をしてきたことをお伝えします。振り返ってみるとそれが日本人としてのアイデンティティだったかと感じています。

朝、校門に立ち、個人契約のスクールバスや保護者同伴で歩いて登校する子どもたちを迎えます。外国ということで派遣された警備員さんと安全面で立っているのだと聞かされていました。登校してくる子どもたちと保護者に挨拶をするのは当然ですが、校門を通り過ぎるハンガリー人にも挨拶をするようにしました。ハンガリー人はシャイな人が多く、すれ違うだけならクールな表情の人が多く、向こうから声をかけられることもほとんどありません。

しかし、挨拶を続けていると向こうから挨拶をしてくれるようになりました。また、表情も日本的な笑顔を見せてくれるようになりました。だんだんと変化が見られ、通り過ぎる車の中から微笑んでくれたり、道の向こう側から手を振ってくれたり、大きな声であいさつをしてくれるようになりました。また、歩道をほうきで掃いたり、マジックハンドなるものを買ってもらって、校内のごみを拾って歩いたりしました。実は、日本人学校は、現地の公立校の敷地の建物を間借りしている状況ですので、ほぼハンガリーの学校のしきたりの中で過ごしています。敷地にはゴミ箱がありますが、基本的に現地校の子どもたちは、自由にお菓子や果物を食べ歩いてそこらあたりに捨てています。日本人学校の職員も子どもたちも「あのひとたちは、いつもごみを捨てている」と不満げには言います。捨てるのをやめろというのは簡単かもしれませんが、ごみをポイ捨てすることもその文化の一つとして根付いています。ただし、町中には、いたるところにゴミ箱があり、ゴミやたばこ、ひいては、ペットの糞用のごみ箱もあり、町はきれいです。

そこで、私は、現状で満足しないで、例のマジックハンドでごみを拾って歩きました。今では、校庭に落ちているごみも少なくなってきたと自負しています。現地校の子どもたちも捨てなくなってきたのかと思います。また、秋になると落ち葉が毎日大量発生し、連日掃き掃除していたのですが、「毎日落ち葉が発生するのに…」とハンガリーに長く住んでいる現地採用日本人職員に半分嘲笑を受けながら言われました。しかし、毎日きれいに行っている私の掃き掃除の姿に道行くハンガリー人がクスヌム（ありがとう）と声をかけてくれるようになりました。私の中にある日本人として大切にしている小さなアイデンティティがハンガリーの人たちにも伝わったかと感じた一年でした。

最後にハンガリーの魅力をいくつか紹介します。ブダペストは、ハンガリーの首都でドナウ川をはさんで王宮と国会議事堂があり世界遺産に登録されています。とても美しい風景です。また、交通網が発達しており、バス、トラム、地下鉄を乗り継いで移動できます。ICT環境がここ数年で発達し、グーグルマップと活用すれば、行きたいところに時間通り行けます。また、人に優しい国で、お年寄り、子ども、妊婦さんなどには、バスや電車で譲り合いの精神が根付いています。そもそも優先席には、座ろうとしない人が多いです。そして、ワインの産地やワイナリーも有名で、自分に合ったワインを求めてワイン巡りをしています。当然、高いワインも存在しますが、ペットボトル2Lで安く販売しているワインもおいしいものがあります。すでに自分に合ったワインを見つけていますが、これからも探求してみたいものです。また、音楽などの芸術の門戸が開かれており、毎晩のようにコンサートが開かれております。最近では、ルノワール展に行き、写真も自由に撮らせていただきました。皆さんも機会がありましたら、ぜひおいでください。

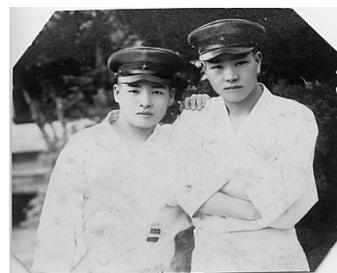
## 「岡山ユネスコ協会の一員として、岡山から平和のバトンを」

副会長 田畑 美和子

当協会にはいろいろなタイプの会員がいます。世界遺産に興味を持って、環境保護に関心があって、児童の教育・文化活動への関心があって～等々。

私が岡山ユネスコ協会と関わりを持ったのは、世界寺子屋運動からで2001年11月世界のエコツアーを調べる一環で、いいチャンスと捉えてベトナムへのスタディーツアーの一員に加えていただきました。出発前のベトナム語のレッスンから帰国後の報告書の編集・報告会開催まで参加者9名で頑張りました。物故された佐橋謙氏、片山主計氏の顔が目には浮かびます。

その時のレポートの中に、「今、世界で一番平和なテロの無いベトナムへ～どうぞ」というベトナム政府のキャンペーンタイトルがあります。あの過酷な戦争を戦い抜き、したたかに復興のリズムに乗っている国。戦争を知らない世代が大部分を占める日本でも、地方のユネスコ協会は概して、【平和】というキーワードから出発しています。しかし“平和”って何でしょうか？



(写真は、ベトナムの働く女性と子ども。右端の若者はビルマで戦死した私の叔父21歳)

昨今、【コロナ】と【ウクライナ】さらに【パレスチナ】が脳裏から離れません。なぜ大人は戦争をするの？という子どもの問いかけにまともに答えられる大人がどのくらいいるのでしょうか。私的には、経済（領土他）を優先する大人のせい～と答えてしまうことが多いです。朝鮮戦争やベトナム戦争のおかげで今の日本の繁栄があると、公然と発言する有識者もいます。

何故、教育（E）・科学（S）・文化（C）を大切にする必要があるのでしょ

うでしょうか？  
教育を中心にした努力で環境問題やヒトによる地球の危機を回避して貧困の連鎖を断ち切る～ それらが戦争の無い世界に繋がるはずだと信じてはいますが。

ユネスコ憲章前文の“平和の砦”を拠り所に今私達一人ひとは、何をすべきか、何ができるのか。ユネスコ運動の存在意義も改めて考えざるを得ない30周年になっているような気がします。世界のニュースに焦りと虚しさを感じながら「平和っ?」と、つぶやく。

NPO/NGO運動は、高齢者中心となりがちでその鬱屈した状況からなかなか抜け出せません。方法的に難しい問題も多いですが、とにかく身近な問題から多くの機会を利用して砦から離れず進むしかありません。バトンを渡して、今を次の戦争への「戦前」にしないために。



## 「ESD カフェ URA 2023」を開催」

理事 角田みどり

2023年12月17日曜日、インターキッズ（NPO法人こくさいこどもフォーラム岡山）主催、岡山ユネスコ協会協賛でのESD CAFE URA 2023が開催され、運営委員、アドバイザーとして参加しました。今年度はこれまでの岡山国際交流センターから岡山コンベンションセンターへと会場を変更し、より広い場所での実施となり、昨年度のように2会場に別れての不便さはなくなりました。

当日は岡山県下18校から136名の中高生が参加し、アドバイザー、引率の先生方、そして私ども運営委員も含めると182



名もの大集合となりました。年々、このカフェに対する評価が高まり、参加者が100名を超すイベントになって来たのは、有り難いことです。

参加した中高生たちは18のグループに分かれ、環境、国際理解、ジェンダー、行政、経済など各界で活躍されているアドバイザーの皆さんとともに、SDGsの17のゴールについて自分達は何ができるか、何をすべきか議論し、その結果をGoogleスライドにまとめて発表していきました。



このスタイルは2021年度から執り行っていますが、中高校生の皆さん方は短時間かつ初対面にも関わらず、的確な内容でまとめ、しかも堂々と発表までやり切っています。現代の中高生たちは社会のいろいろな物事に興味を抱いていること、考えや学びをまとめる力が高いことを毎回実感します。学校教育の中で、情報収集能力やプレゼン力の育成に効果が上げられていることが確認できます。最後の指導講評で岡山市SDGs・ESD推進課の岩田裕久課長からはご自身の海外留学経験も踏まえられ、「間違いや批判を恐れずに自分の意見を述べることの大切さ」について述べられましたが、参加した中高生たちの心に染み入り、今後の生き方の参考になったことと確信しています。

今回を機に自分たちに出来ることを見つける、増やすなど新たな行動を起こす契機になって頂ければ嬉しく思います。

参加した中高校生の皆さん、活発な意見交換ありがとうございました。引率の先生方、お世話になりました。アドバイザーの方々、貴重なご指導を賜り、心より感謝申し上げます。また、長時間にわたり、準備、運営に携わってくださった運営委員、関係者の皆様、お疲れ様でした。今年度も充実したESDカフェとなり、次回がさらに期待できるところです。



## 「ユネスコ協会 SDGs パスポート事業」

理事 栗坂 祐子

「ユネスコ協会 SDGs パスポート事業」は、小・中・高校の児童生徒がパスポートをボランティア活動への参加のきっかけのツールとし、福祉や環境、平和等の地域や世界が抱える課題を知り、自ら解決する行動力を育てるように、一人ひとりの努力を記録し応援する取組です。岡山ユネスコ協会関係では、26校の小・中学校で約6,700名の児童・生徒が取り組んでいます。今年度は新型コロナの5類への移行により地域でのボランティア活動が活発になってきました。12名の中学生が30ボランを達成、47名の中学生が15ボランを達成されました。30ボラン達成者には認定証と副賞、15ボラン達成者には奨励賞を贈呈しました。コロナ禍の影響で、ここ数年体験発表会の実施を見送ってきましたが、昨年8月には「おかやまSDGsフェア2023」の中で、岡山市立御南中学校・岡山市立操南中学校の生徒さんが、素晴らしい活動発表をしてくださりました。その感想を紹介します。

### <御南中学校 真田梨紗子>

自分たちの発表の時に最初とても緊張して不安でしかありませんでしたが、本番実際にやってみるとまちがえるかもと不安だったところもちゃんと言えて、練習の成果があったなと思うことが出来ました。操南中の発表を聞いたら、もっとこうしたほうが良かった、こういうことを工夫したら良かったと思うこともありました。発表が終わったあと、「凄かった!」とか「聞き取りやすく内容もわかりやすくて良かった」などと、ものすごくほめて下さり、仲を深めることが出来ました。操南中の活動は、御南中とだいぶ違い、地域の方々や企業の方と協力してゴミ拾いをしたり、ウクライナとロシアの戦争、トルコ地震などと国を超えての問題に取り組んで、募金活動をしたりしていて、そういう取り組みの姿勢が凄いなと思いました。私が思っているSDGsの考えとして、2030年までには解決しないとけない目標とはいえ、まだまだ世の中にはSDGsの考えや対策が足りないのではないかと感じてしまいます。「海ゴミストップ! 笹が瀬川クリーンアクト」でとれたゴミの量は一か所でも600kgあり、6つの地域合計1.6tもとれるとなると、やはりまだまだゴミは多くあり、ゴミが関係しているSDGs目標である12,13,14など未だに解決する道筋すらわかっていない目標ばかりだと思います。自分は、たとえ同じような問題でも目標によって解決策や考え方、今後の行動の仕方は違ってくるのではないかと、そして、今よりもっと暮らしやすい世の中になるのではないかと感じました。

### <操南中学校 大池愛寧>

御南中の活動について知ることができてフェア全体を通してとても楽しかったです。御南中の方は地域の方々との関係性がとても親密で、高齢者から小さい子まで幅広い世代で一体となって学区の活動を楽しんでいてとても素敵だと思いました。

また、自分たちの活動を多くの人に知ってもらうためにこれまで何度も試行錯誤してきたので、今回たくさんの方々に発表を聞いていただけてとても嬉しかったです。

### <今後頑張りたいこと>

発表が終わったあと御南中の方々と是非交流したいという話をしていたのでいつか実現したいです。また、今回の発表や意見交換の中で操南中でもっと地域の方との交流を深めていきたいと思いました。この活動について、夏休み明けに校内にラジオ放送や新聞を通して発信していく予定です。

### <参加したきっかけ>

もうすぐ今期の生徒回が終了してしまうので、今までの私達の活動の集大成を多くの人に発信したいと思い参加を決めました。また、これまでたくさんの活動に参加してきたからこそわかる情報や感じる事をぜひたくさんの方にお届けしたいと思っていたので、良い機会だと思い、参加しました。

### <最後に>

今回はこのような素晴らしい場を設けてくださりありがとうございました。



### <編集後記>

桜の開花が待ち遠しい今日この頃ですが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。今回でニュースレターは、第65号の発行となりました。会員の皆様方には、ユネスコの活動について理解していただき、今後のご協力をお願いいたします。これからもニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想をどしどし取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。連絡はメールでもかまいません。

理事 川口 芳子



発行 岡山ユネスコ協会

連絡先

〒700-0013

岡山市北区伊福町4-4-31-202

TEL: 050-3551-0642

URL: <https://okaunesco.wixsite.com/index>

メールアドレス: okayama@unesco.or.jp